

用語集（コミュニケーション）

生得的な反射活動

乳児に見られる正常な反射で、成長とともに消失する。モロー反射、バビンスキー反射、把握反射、哺乳反射などの原子反射のこと。

社会的微笑

3か月から4か月頃は、生後2回目の質的転換期である。生理的微笑から、母親・父親・親しい人を見た時に微笑む「社会的微笑」に変わってくる。また、自分の気持ちや感情をはっきり自覚して微笑もうと思っただけで微笑んでいるのではないが、大人が赤ちゃんの様子や内的状態を推測しながら抱っこや語りかけを繰り返す中で、周りの刺激を媒介としながら人に向かって反応する社会的微笑へとつながっていく。これは、赤ちゃんの中に社会性が芽生えている確かな証である。

二項関係

「乳児（自分）とお母さん（他者）」、あるいは「乳児（自分）とおもちゃ（物）」といった二項の間で構成される関係。例えば、「乳児とお母さんが見つめ合う」、「乳児がおもちゃに働きかける」などの行為によって成り立つ。

喉子音

クンクンと喉を鳴らすこと。

視線の共有

3～5か月頃になると、周りの物を積極的に見るという機能が確立し、さらに大人と同じ物を見ること「視線の共有」が成立し始める。

感情の分化

快・不快の二種類から感情が分化してくると「うれしい」「楽しい」「気持ちいい」「悲しい」「苦しい」「痛い」「気持ち悪い」など色々な感情表現が出現する。自分から呼びかけるように発声で大人の注意を引いたり、部屋に誰もいなくなると泣く、抱っこしないと泣き止まないといったように自分の感情を、相手を意識した中で、注視・発声・笑顔・泣くなどの手段で表し、欲求が満足すると機嫌がなおる。

口唇破裂音

「プップッ」

探索活動

棚の上の物を落としたり、落ちたものを探したりする行動。

期待活動

予測できる、分かっていることに対して起こす行動。

三項関係

物に視線を向けたあと、大人の方に視線を移すことにより、自分の要求を実現したり、大人と注意を共有できる「物と大人と子ども」の関係。

意図

意図は目標とその目標を達成するためのプランから成る。例えば、大人が子供といっしょに積み木を積むことを意図したのに、子どもが一人で積んでしまう場合は、「積み木を積む」という目標は理解でき

ているが、「いっしょに積む」という大人のプランは理解されてないことになる。

原平叙（原平述）

人の注意を自分に向けてのために物を使うこと。ベイツらは 10～12 か月の赤ちゃんの伝達意図と手段に注目し、10～12 か月の赤ちゃんは、こういった平叙文の原型のような行為を行うことを指摘している（「視線＋空を指差す」）で、「お母さん、空きれいね」の意味を表す）

共同注意

複数の人が同時に同じ対象に注意を向けている状態のこと。生後9か月までは、乳児の視線とその対象に大人が合わせることによって成り立つ「支えられた共同注意」がほとんどである。9か月頃からは、大人からの働きかけによって子供が大人の視線を追従する「受動的な共同注意」が成立し、その後、子ども自ら大人の注意を操作して共同注意を作り上げる「能動的な共同注意」がみられるようになる。

クレーン（リフトハンド）

要求する際に大人の手を道具のように用いる行動（支援者の手をとって、欲しい物の方へ指し向け、取ってもらおうとする行動）。

ショーイング

物をかざし、人に見せる。

定位の指さし

共同行為で絵本を見て意味を察して指さしをする。（11か月）

伝達手段の複合化

指さしと発声が同時に出現する。例）食べ物を見て「マンマ」と言う。

ミラリング

子どもの動作をそのまま真似ることである。子どもが、自分と同じことをしている大人を見て、「大人が自分と同じように働いてくれている」という関係に気付くといった効果を生むことを期待している。

モニタリング

音声や動作を真似てやろうとすること。

初語

初めて意味のあることばが出る。

見立て遊び

単語から二語文による伝達が含まれ始めると、見立て遊びが活発になり、ストーリーが出てくる。指さし、語、文の伝達機能とともに、動詞や形容詞も理解し表現できるようになってくる。見立てを通して、話題を提供する開始行動もできるようになり、かかわる大人は、子どものことばを正しく言い直したり広げて返すことが大切になってくる。

志向の指さし

興味のあるものに指さしする。

協応

二つの器官や機能が連動すること。私たちの生活には目と手を使った活動（目と手の協応）が多くある。例えば、学習活動においては、文字を書く活動やハサミを使う活動がそれにあたり、日常生活においては、ボタンを留めたり、お箸を使ってごはんを食べるときなどがそうである。